

岡山大学構内遺跡発掘調査報告 第37冊

# 鹿田遺跡 15

— 第12・27次調査 —

(エネルギーセンター新営・自家発電装置新設)

2021年

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター



## 序

岡山大学鹿田キャンパスにおける本学の発掘調査は1983年度に始まり、その後約40年間にわたって断続的に行われていました。調査対象となった鹿田遺跡は、現在では弥生～中世の集落遺跡として地域を代表する遺跡となり、特に古代～中世では、藤原摂関家の殿下渡り領である「鹿田庄」との関係で注目されています。

本報告書は2000～2001年度に実施した鹿田遺跡第12次調査の報告書です。調査地点は鹿田キャンパスの南東部の一角にあたりますが、周辺の既往調査地点を加えると、弥生時代～中世の人々が暮らした居住空間の南東端付近の状況を面的に捉えることができるようになりました。一つの遺跡を対象に、発掘調査を重ねてきた本学ならではの成果といえるかもしれません。

鹿田遺跡は、周辺地域の中でも最も早い段階に中世集落を形成する遺跡の一つとして重要な位置を占めています。本調査では、その開始時期にあたる11世紀に始まり12世紀で姿を消す屋敷地が見つかりました。さらに、本地に集落を形成するにあたって大規模な土地造成が行われたことや、13世紀のはじめには、集落内で屋敷地配置が再編されたことを示す貴重なデータが得られたことは、大きな成果といえるでしょう。それは同地で営まれた中世集落の成立過程を景観変化とともに伝えてくれます。また、これまで本遺跡では岡山平野で最も南に位置する弥生時代の水田が報告されていますが、それは標高0.5m前後という低い環境にあります。本調査では、そうした環境下で盛んに排水を意識したかのような状態の溝群が、水田域の端に高まりを形成していました。こうした遺構と環境との関係は、当時の水田耕作の様子を探る手がかりになるかもしれません。

そのほかにも、鹿田遺跡では資料に乏しい時期である飛鳥時代の遺構・遺物や平安時代の軒平瓦の存在は、今後の研究に期待がふくらみます。

調査終了後、調査担当者が転出する中で報告書刊行までに時間を要しましたが、こうした成果が、皆様にとって今後の研究の一助になれば幸いです。

本報告書の作成にあたっては、新型コロナウイルス感染症の影響により、樹種同定の作業に支障がでることとなりました。その成果については、期を改めて研究報告として発表する予定です。

最後になりましたが、本報告書作成に当たっては、学内外の多くの方々から多大なご支援をいただきました。また、発掘調査時に様々な形でご協力いただいた関係者の方々にも合わせて、感謝申し上げます。

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

センター長 渡邊 和 良

副センター長 山 本 悦 世



# 目 次

<b>第1章 歴史的・地理的環境</b> .....	1
第1節 遺跡の位置と周辺遺跡 .....	1
第2節 鹿田遺跡 .....	3
1. 構内座標の設定 .....	3
2. 遺跡の概要 .....	3
<b>第2章 調査に至る経緯と概要</b> .....	9
第1節 調査に至る経緯と経過 .....	9
1. 調査の経緯 .....	9
2. 調査の体制 .....	9
a. 第12次調査 .....	9
b. 第27次調査 .....	10
3. 調査経過 .....	10
a. 第12次調査 .....	10
b. 第27次調査 .....	11
第2節 調査の概要 .....	野崎貴博 11
<b>第3章 調査の記録</b> .....	13
第1節 調査地点と層序 .....	野崎 13
1. 調査地点の位置 .....	13
2. 層序 .....	13
3. 地形 .....	19
第2節 弥生時代～古墳時代初頭の遺構・遺物 .....	20
1. 概要 .....	20
2. 高まり .....	20
3. 井戸 .....	23
4. 土坑 .....	24
5. 溝 .....	30
6. 土器だまり .....	37
第3節 古代の遺構・遺物 .....	42
1. 概要 .....	42
2. 溝 .....	44
3. 耕作痕 .....	47
第4節 中世前半の遺構・遺物 .....	48
1. 概要 .....	48
2. 掘立柱建物・柱穴列・ピット群 .....	岩崎志保 48
3. 井戸 .....	野崎 55
4. 土坑 .....	69
5. 溝 .....	72
第5節 近世の遺構・遺物 .....	80
1. 概要 .....	80

2. 土坑	80
3. 段・畦畔	92
第6節 包含層ほかの出土遺物	93
<b>第4章 自然科学的分析</b>	96
1. 樹種鑑定・漆膜分析・顔料分析 (勸元興寺文化財研究所)	96
<b>第5章 第12・27次調査成果のまとめ</b> 野崎	101
<b>遺構一覧表</b>	103

## 写真図版

## 挿図目次

<b>第1章</b>		図25 土坑10	28
図1 周辺遺跡分布図	2	図26 土坑11・出土遺物	29
図2 発掘調査地点と構内座標	4	図27 土坑12	29
<b>第2章</b>		図28 土坑12出土遺物	30
図3 調査地点の名称	9	図29 溝1断面	30
図4 調査風景	11	図30 溝2断面	30
図5 検出遺構全体図	12	図31 溝3断面	31
<b>第3章</b>		図32 溝4断面	31
図6 調査地点位置図	13	図33 溝5断面	32
図7 調査区土層断面(1)	15	図34 溝5出土遺物	33
図8 調査区土層断面(2)	16	図35 溝6・7断面	33
図9 調査区土層断面(3)	17	図36 溝8断面	34
図10 調査区土層断面(4)	18	図37 溝9断面	34
図11 地形の変遷	19	図38 溝10・11断面	34
図12 弥生時代中期～古墳時代初頭の遺構全体図	21	図39 溝12・13断面	35
図13 古墳時代初頭の高まり	22	図40 溝14断面	35
図14 井戸1	23	図41 溝15断面・出土遺物	36
図15 井戸1出土遺物	24	図42 溝16断面	36
図16 土坑1	24	図43 溝17断面	36
図17 土坑2	25	図44 土器だまり1	37
図18 土坑3	25	図45 土器だまり1出土遺物(1)	38
図19 土坑4	25	図46 土器だまり1出土遺物(2)	39
図20 土坑5	26	図47 土器だまり1出土遺物(3)	40
図21 土坑6	26	図48 土器だまり1出土遺物(4)	41
図22 土坑7	26	図49 土器だまり1出土遺物(5)	42
図23 土坑8	27	図50 古代の遺構全体図	43
図24 土坑9	27	図51 溝18・出土遺物	44

図52	溝19断面	44	図97	溝36断面・出土遺物	78
図53	溝19遺物出土状況・出土遺物	45	図98	溝37断面	78
図54	溝20断面・出土遺物	45	図99	溝38断面	79
図55	溝21断面	46	図100	溝39断面	79
図56	溝22断面	46	図101	溝40断面	79
図57	溝23断面	46	図102	溝41・出土遺物	80
図58	溝24断面・出土遺物	47	図103	近世の遺構全体図	81
図59	溝25断面	47	図104	土坑16～18・土坑16出土遺物	82
図60	溝26断面	47	図105	土坑19	83
図61	中世前半の遺構全体図	49	図106	土坑20	84
図62	中世前半の遺構：調査区南西	50	図107	土坑21	84
図63	掘立柱建物1	51	図108	土坑22	85
図64	掘立柱建物・柱穴列出土礎石	52	図109	土坑23	86
図65	柱穴列1	53	図110	土坑24・25	86
図66	柱穴列2	54	図111	土坑26	87
図67	ピット出土遺物	54	図112	土坑27・28・出土遺物	87
図68	井戸2	55	図113	土坑29・出土遺物	88
図69	井戸2出土遺物	56	図114	土坑30	89
図70	井戸3	57	図115	土坑31	89
図71	井戸3出土遺物	58	図116	土坑31出土遺物	90
図72	井戸4	59	図117	土坑32	90
図73	井戸4出土遺物(1)	60	図118	土坑33・出土遺物	91
図74	井戸4出土遺物(2)	61	図119	土坑34	91
図75	井戸4出土遺物(3)	62	図120	土坑35	92
図76	井戸5	63	図121	土坑36	92
図77	井戸5出土遺物(1)	65	図122	畦畔・段断面	93
図78	井戸5出土遺物(2)	66	図123	包含層出土遺物(1)	94
図79	井戸5出土遺物(3)	67	図124	包含層出土遺物(2)	95
図80	井戸5出土遺物(4)	68	<b>第4章</b>		
図81	土坑13	69	図125	木材組織	96
図82	土坑13出土遺物	70	図126	漆塗り櫛塗膜断面	97
図83	土坑14・出土遺物	71	図127	漆塗り櫛	
図84	土坑15	72		黒色部分のXRFスペクトル	98
図85	溝27断面・出土遺物	72	図128	漆塗り櫛	
図86	溝28断面	73		花紋様赤色部分のXRFスペクトル	98
図87	溝28出土遺物	74	図129	漆塗り櫛	
図88	溝29断面	74		金線部分のXRFスペクトル	99
図89	溝29出土遺物	75	図130	漆塗り櫛 金線周囲の赤味がかった	
図90	溝30断面	75		紋様部分のXRFスペクトル	99
図91	溝31断面	75	図131	漆塗り櫛の文字	100
図92	溝32断面	76	<b>第5章</b>		
図93	溝33断面	76	図132	鹿田地区南部における	
図94	溝34断面	76		弥生時代後期～古墳時代初頭の遺構	101
図95	溝34出土遺物	77	図133	鹿田地区南部における	
図96	溝35断面・出土遺物	77		古代末～中世前半の遺構	102

## 表 目 次

<b>第3章</b>		表4 井戸5出土礫一覧 ..... 64
表1 掘立柱建物・柱穴列構成柱穴一覧 ..... 51		表5 井戸5出土板材計測表（未掲載分） ..... 69
表2 未掲載礎石一覧 ..... 53	<b>第4章</b>	
表3 井戸4出土板材計測表（未掲載分） ..... 61	表6 塗膜断面および顔料分析の結果 ..... 97	

## 図 版 目 次

図版1 弥生時代～古墳時代の遺構全景	図版22 中世前半の井戸(5)
図版2 古墳時代初頭の井戸(1)	図版23 中世前半の井戸(6)・土坑
図版3 古墳時代初頭の井戸(2)・土坑(1)	図版24 中世前半の溝(1)
図版4 古墳時代初頭の土坑(2)	図版25 中世前半の溝(2)
図版5 古墳時代初頭の土坑(3)	図版26 中世前半の溝(3)
図版6 古墳時代初頭の土坑(4)	図版27 中世前半の溝(4)
図版7 古墳時代初頭の土坑(5)	図版28 中世前半の溝(5)
図版8 古墳時代初頭の土坑(6)ほか	図版29 近世の遺構全景
図版9 古墳時代初頭の土器だまり1(1)	図版30 近世の土坑(1)
図版10 古墳時代初頭の土器だまり1(2)	図版31 近世の土坑(2)
図版11 弥生～古墳時代初頭の溝(1)	図版32 近世の土坑(3)
図版12 古墳時代初頭の溝(2)	図版33 近世の土坑(4)
図版13 弥生～古墳時代初頭の溝(3)	図版34 土器だまり1出土遺物(1)
図版14 飛鳥時代の溝(1)	図版35 土器だまり1出土遺物(2)
図版15 飛鳥時代の溝(2)	図版36 土器だまり1出土遺物(3)・古代の溝出土遺物(1)
図版16 中世前半の遺構全景	図版37 中世の井戸・土坑出土遺物
図版17 中世前半の掘立柱建物・柱穴列	図版38 中世の溝出土遺物・瓦・土製品・石器
図版18 中世前半の井戸(1)	図版39 礎石・金属器
図版19 中世前半の井戸(2)	図版40 木製品(1)：井戸4
図版20 中世前半の井戸(3)	図版41 木製品(2)：井戸5
図版21 中世前半の井戸(4)	図版42 編組製品：編籠



## 例言

1. 本書は岡山大学埋蔵文化財調査研究センターが、岡山大学エネルギーセンター新営・自家発電装置新設に伴って実施した鹿田遺跡第12・27次調査の発掘調査報告書である。調査地点は、岡山市北区鹿田町2丁目5番1号に所在する。発掘調査地点の鹿田地区構内座標はCN29～CW44区にあたる。期間は第12次調査が2000年10月2日～2001年5月10日、第27次調査が2017年10月10日～11月10日である。調査面積は第12次調査が1897㎡、第27次調査が34.5㎡である。
2. 発掘調査および報告書作成は、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター運営委員会の指導のもとに行われた。委員諸氏に御礼申し上げる。
3. 本書作成にあたり、石材同定については鈴木茂之氏（岡山大学名誉教授）、墨書土器の判読については今津勝紀氏・東野将伸氏（岡山大学大学院社会文化科学研究科）にご教示・ご協力いただいた。
4. 発掘調査時の遺構実測・写真撮影は、調査体制の項で記載する調査研究員・技術補佐員が行った。
5. 報告書作成に当たっての主な担当は以下の通りである。  
＜遺物＞土器・土製品・石器・金属器：（実測・浄書・観察表）山本悦世・西本尚美・大久保雅子・有賀紅美・小野素子  
木製品：（実測・浄書・観察表）野崎貴博・有賀・小野  
写真撮影：南健太郎  
＜遺構＞浄書：山口雄治・野崎・有賀・小野  
＜データ整理＞井上佐智・小野
6. 本書の執筆分担は目次および担当部分の文末に示した。
7. 編集は山本悦世（副センター長）・清家章（調査研究室長）の指導のもと、野崎が担当し、岩崎志保の協力を得た。
8. 発掘調査の概要は『岡山大学構内遺跡調査研究年報18』、『岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要2017』に一部報告しているが、本書をもって正式なものとする。
9. 本書で使用した地形図は、建設省国土地理院発行の1/25000の地形図「岡山北部」と「岡山南部」(平成6年度発行)を合成して使用したものである。
10. 本書に掲載した記録・出土遺物は全て本センターで保管している。

## 凡例

1. 本書で用いる高度値は海拔表高であり、方位は国土座標V座標系（日本測地系）の座標北である。
2. 遺物番号は遺構別に番号を付すが、土製品にはT、石器にはS、木器にはW、金属器にはMを付して通し番号とする。
3. 遺構に関するデータは一覧表にまとめた。
4. 拓本は、内・外面を掲載する場合は、適宜、内・外を示した。片面の場合は外面を基本とした。  
観察表の表記基準は以下の通りである。  
①胎土は、微砂：砂粒径0.5mm以下、細砂：0.5～1mm、細礫：2mm以上  
②法量の単位は「cm」である。数値の差が3mm以下の場合は、平均値とし、以上の場合は併記した。
5. 土層注記では鉄分をFe、マンガンをMnと表記した。一般的なものは省略している。また、下記の記号を用いて含有量を示している。  
◎：顕著な含有、○：含有、△：少量の含有

